

1998年度（平成10年度）  
事業報告

— 1998年4月～1999年3月 —

[1] 総括	— 1 —
[2] 研究事業「課題研究」	— 3 —
[3] 研究事業「準備研究」	— 4 —
[4] 研究事業「特別研究」	— 5 —
[5] 受託研究事業	— 5 —
[6] 共同研究事業	— 6 —
[7] 学術フォーラム・その他の研究集会	— 6 —
[8] 「招へい学者」制度	— 6 —
[9] 「特別研究員」制度	— 6 —
[10] 研究成果公表シンポジウム	— 6 —
[11] 一般公開事業	— 7 —
[12] 情報出版事業	— 8 —
[13] 委員会活動	— 9 —
[14] 一般施設公開ならびに視察・見学者の受け入れ	— 10 —

本研究所の設立理念を踏まえた基本構想の具体化に努め、関西文化学術研究都市における中核的施設としての役割を果たすことを目指す事業計画に沿って、「学者村」の礎を築くべく、研究事業を中心とする各種事業運営の活性化に向けた取り組みを行った。

1998年度の重点事項をはじめとする事業報告は、以下のとおりである。

## 〔1〕総括

### 〔1〕研究所運営体制の充実

#### （1）所長会議の定例開催

中長期的視点に立った研究所運営ならびに研究所諸事業の在り方について検討し、迅速かつ適切な意思決定を行うため、正副所長により構成する所長会議を定例的に開催した。

#### （2）企画委員会の機能充実

所長の諮問に応じて研究事業の企画・立案、助言ならびに評価を行う企画委員に対して1997年度に引き続き「調査研究費」による活動支援を行うなど、基幹的審議機関としての企画委員会の機能充実を図り、年度内に4回の委員会を定期的で開催した。

### 〔2〕研究事業の推進

1998年度から、新たに3研究プロジェクト（課題研究）を発足させるとともに、日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」ならびに科学技術振興事業団「戦略的基礎研究推進事業」として認められた新規プロジェクトを「特別研究」として推進を図った。

なお、これまで行ってきた「課題研究」ならびに「準備研究」の他に、新たに短期間の研究によって、その成果の取りまとめを行う小規模のプロジェクトや、フォーラム等を開催し、研究活動の一層の活性化を図った。

### 〔3〕研究活動の活性化に向けた取り組み

#### （1）「招へい学者（IIAS Fellow）」の招へい

本研究所の研究環境を活かし、研究活動の活性化を図るため、国内外の卓越した研究者を「招へい学者（IIAS Fellow）」として招へいする制度により、1998年度には7名の研究者を招へいした。

#### （2）「特別研究員」制度による若手研究者の育成

優秀な若手研究者の研究を奨励するために設けた、採用期間2年を限度とする「特別研究員」制度により、1998年度には新たに2名を採用し、計4名に対して課題研究・準備研究の推進を通じて若手研究者の育成を図った。

### 〔4〕研究成果の取りまとめ、及び評価

1997年度で終了した研究プロジェクトについては、その研究成果を1998年度内に取りまとめるとともに、学術出版や研究成果を一般に公開する講演会の開催等、研究成果の公表に努めた。また評価システムのあり方についても検討を行った。

## 〔5〕研究環境の整備及び情報発信機能の充実

本研究所の情報基盤を整備・拡充し、高度情報化に向けた取り組みを推進した。情報メディアを活用し、研究活動及び研究成果の公表を行うとともに、学術出版や広報活動等についても積極的な展開を図った。

## 〔6〕研究事業費確保への取り組み

厳しい経済環境下における研究事業費の確保は重要な課題である。1998年度においては、文部省、特殊法人ならびに民間助成団体等から引き続き助成を受けた。

### (1) 文部省科学研究費補助金「特定奨励費」

文部省からは前年度に引き続き、科学研究費補助金「特定奨励費」の助成を受けた。主テーマを「生物の生存と維持に関する多分野の横断的基礎研究」として交付申請を行い、学術審議会による厳しい審査を経て総額3900万円が交付された。これにより主テーマの下に広範な研究事業の推進を図った。

### (2) 日本馬主協会連合会「社会貢献委員会学術助成金」

日本馬主協会連合会「社会貢献委員会」から1995年度において主テーマを「人類の安全に関する科学的広領域研究」として5000万円の研究助成を受け、繰越金により96年度以降も事業を継続し98年度を以て終了した。1998年度においては、研究成果の取りまとめ、ならびに公表のための公開事業を実施し、同連合会に対して総括的な完了報告を行った。1998年度の事業実績額は、1434万円。

### (3) 日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」

「情報市場における近未来の法モデル」の研究テーマで、日本学術振興会に対して「未来開拓学術研究推進事業」の申請を行い、1998年度より5年間の事業が認められた。1998年度の事業実績額は、6714万円。

### (4) 科学技術振興事業団「戦略的基礎研究推進事業」

「器官形成に関わるゲノム情報の解読」の研究テーマで、科学技術振興事業団に対して「戦略的基礎研究推進事業」の申請を行い、1998年度より5年間の事業が認められた。

## 〔7〕受託研究「宇宙ステーション等の人文社会的利用法に係わる調査研究」

宇宙開発事業団(NASDA)より、1998年度において「宇宙ステーション等の人文社会的利用法に係わる調査研究」を受託した。1998年度の事業実績額は、約500万円。

## 〔8〕共同研究

数理解科学分野における京都大学数理解析研究所との協定に基づき、本年度においても引き続き共同研究を実施した。

## 〔9〕情報出版事業

研究事業や、開催した研究集会の成果などを「IIAS Reports」等として出版公表した。また、広報誌「こうとうけん」や「IIAS NEWS LETTER」を発行し、広報活動に努めた。さらに、インターネット上に開設したホームページでの公開情報の充実を図った。

## [2] 研究事業「課題研究」

課題研究は、新しい研究の萌芽と新たな学問分野の立ち上げを目指して、学際的な基礎研究を計画的に推進するものである。

1998年度における課題研究は、継続研究である3プロジェクトと、97年度の準備研究の成果を踏まえ、課題研究に移行した3プロジェクトの計6プロジェクトを推進した。

課題研究の概要は以下のとおり。

### [1] 「人類の自己家畜化現象と現代文明」 (1996年度開始、98年度終了)

1995年度に終了した理論生命科学「遺伝と進化」プロジェクトにおいては、「生命体における恒常性と変動性に関する問題」の解明を目指して、「DNAよりみた現生人類の起源と過去」をテーマとして研究を行った。

その研究成果を踏まえ、新たに人類進化論上の顕著な特徴として「自己家畜化」に着目し、現代文明下での人類の諸問題の検討を通じて、人類進化の未来を考察するために、「人類の自己家畜化現象と現代文明」を研究テーマとした。さらに本課題研究によって、人間とは何か、文明とは何かについても検証を行い、人類に対する近未来への指針の獲得を図った。

1998年度は最終年度として、従来の小規模研究会やワークショップ等の研究集会以外に、一般を対象とする学術講演会及び公開セミナー、さらに研究事業を総括する国際シンポジウムを開催した。

研究集会は、国際ワークショップを1回ならびに研究会を3回開催した。

学術公開講演会は2回開催した。

### [2] 「生命体の多様性—地球に生きる生命系の科学—」 (1996年度開始、98年度終了)

生物多様性研究は、今もっとも急速に発展している研究分野である。先駆的に実施し1995年度に終了した理論生命科学「地球上における生命体の多様性の出現と維持に関する問題—生命体の多様性—」プロジェクトの研究成果を踏まえ、「生命体の多様性」の研究はいかにあるべきかという視点を科学的視座に置いた研究の可能性と重要性に関する認識に基づき、1996年度にスタートした課題研究である。

1998年度は最終年度として、従来の研究集会以外に、生物多様性研究の今日における総合的像を描き出す国際シンポジウムを開催し、研究成果の出版に向けて最終的なまとめを行った。

研究集会は、国際シンポジウムを1回、研究会を3回開催した。

### [3] 「言語の脳科学—言語獲得と障害の脳理論を目指して—」

(1997年度開始、99年度終了予定)

本研究事業は、1996年度に終了した理論生命科学「脳及び高次神経系における高次機能に関する問題—脳と心—」プロジェクトの研究成果を踏まえ、97年度において「言語の脳科学—言語獲得と障害の脳理論を目指して—」をテーマとして、新規に立ち上げた課題研究である。

1998年度においては、1997年度における研究によって言語処理に関する脳研究の方向付けがかなり明確になってきたので、これらを踏まえて、言語獲得と理解に関する問題に絞って研究を推進した。そのため、研究集会と公開シンポジウムを開催した。

研究集会は、国際シンポジウムを1回、研究会を4回開催した。

### [4] 「生物研究と生命—生物学の統合化と生命概念形成への寄与—」

(1998年度開始、2000年度終了予定)

本研究事業は、1997年度における準備研究「20世紀の『生物研究』から21世紀の『生命研究』を考える」の研究成果を踏まえ、98年度より「生物研究と生命—生物学の統

合化と生命概念形成への寄与」をテーマとする課題研究に移行したものである。

1997年度では20世紀の生物学各分野の研究の流れを実体的に捉えたが、1998年度においては、それがどのような形で統合されて行くのかを研究集会を開催して探った。

研究集会は、研究会を2回開催した。

〔5〕「科学の文化的基底」（1998年度開始、99年度終了予定）

本研究事業は、1997年度における準備研究の研究成果を踏まえ、98年度より課題研究に移行したものである。

1998年度の本研究においては、古代オリエント、ギリシャ、イスラム、インド、中国、中世ラテン世界およびルネサンスの科学以後の近代および現代の科学について、研究集会を中心にその文化的基底を明らかにすることを目指し、検討した。また、日本における近代科学の受容と伝統文化との関係も取り上げ、検討した。

研究集会は、研究会を5回開催した。

〔6〕「環境と食糧生産の調和に関する研究—人類生存の視野から—」

(1998年度開始、2000年度終了予定)

本研究事業は、1997年度における準備研究の研究成果を踏まえ、98年度より課題研究に移行したものである。1998年度は「アジアからの発想」を共通のテーマとして取り組んだ。年度当初にシンポジウムを開催し、共通認識の形成を図り、共通の研究課題を明らかにした。さらに、研究集会を通じてメンバーの課題研究の成果を検討するとともに、中国・インド地域への研究者延べ4名の派遣を行い、現地調査を行った。

研究集会は、シンポジウム1回、公開セミナー1回、研究会を3回開催した。

〔3〕研究事業「準備研究」

企画委員会における中長期的視点に立った課題探索に関する審議を経て、将来の課題研究として提案された研究計画が本格的な課題研究に発展し得るか否かの検討・評価、ならびに課題研究として採択された場合に研究計画を円滑に実施できるよう、概ね1年を目途に準備的・予備的研究を行うものである。

準備研究の運営については研究課題と研究代表者を決め、具体的な活動内容は企画委員会での議論を踏まえ事業化を図った。概ね、参加研究者を限定せず小規模研究会を開催して検討を行った。

1998年度に実施した準備研究の課題は下記のとおり。

〔1〕「臨床哲学の可能性—生命環境の諸問題を軸として—」

研究代表者：野家 啓一 東北大学文学部教授（哲学）

研究会開催：4回

〔2〕「物質科学の新しい展開を目指して」

研究代表者：金森 順次郎 大阪大学名誉教授（物性物理学）

研究会開催：7回

〔3〕「政府統治（government governance）の研究—現代日本政府の統治構造—」

研究代表者：本間 正明 大阪大学経済学部教授（公共経済学）

研究会開催：1回

〔4〕「複雑系と社会科学の方法」

研究代表者：塩澤 由典 大阪市立大学経済学部教授（数理経済学）

研究会開催：2回

〔5〕「ヒト遺伝子解析及び遺伝子医療に伴う倫理問題とそれへの対応」

研究代表者：武部 啓 京都大学大学院医学研究科教授（遺伝学）

研究会開催：2回

なお、1年間の準備研究の研究成果を踏まえ、所長会議において検討した結果、1999年度においては、次の2課題の課題研究への移行を決定した。

○「臨床哲学の可能性—生命環境の諸問題を軸として—」

○「物質科学の新しい展開を目指して」

また、研究期間を延長し、引き続き準備研究として実施する2課題を決定した。

○「政府統治（government governance）の研究—現代日本政府の統治構造—」

○「ヒト遺伝子解析及び遺伝子医療に伴う倫理問題とそれへの対応」

〔4〕研究事業「特別研究」

本研究所が、事業主体との間で委託研究契約または共同研究契約を締結して推進する事業の内、特に大型の予算を組み、数年に亘る研究期間を予定する特殊性などを考慮して、特別の推進体制や研究の枠組みを設けて推進する研究事業を「特別研究」とした。

1998年度から特別研究として次の2課題を推進した。

〔1〕「情報市場における近未来の法モデル」

本特別研究は、1997年度における準備研究「21世紀の法モデル」の研究成果を踏まえ、日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」に対して1998年度の新規研究プロジェクトとして「情報市場における近未来の法モデル」を申請し、認められた研究事業である。契約形態は受託研究。研究期間は1998年度～2002年度（5年間）である。1998年度受託事業費の総額は67,143,000円。

研究代表者：北川善太郎 国際高等研究所副所長

研究集会開催：15回

〔2〕「器官形成に関わるゲノム情報の解読」

本特別研究は、科学技術振興事業団「戦略的基礎研究推進事業」に対して1998年度の新規研究プロジェクトとして「器官形成に関わるゲノム情報の解読」を申請し、認められた研究事業である。契約形態は共同研究。研究期間は1998年12月～2003年11月（5年間）である。

本研究は、実験を伴う生命科学研究であるため、本研究所では全体総括を行い、具体的な研究は共同研究機関である奈良先端科学技術大学院大学等で行うこととした。

研究代表者：松原 謙一 国際高等研究所副所長

〔5〕宇宙開発事業団からの受託研究事業

「宇宙ステーション等の人文社会的利用法に係わる調査研究」

本調査研究は、宇宙開発事業団（NASDA）による1996年度～97年度の受託研究「JEMの人文社会的利用法に係わる調査研究」の成果を踏まえ、98年度において新たに受託した研究事業である。本調査研究では多くの期待がかかる宇宙ステーションの人文社会的な利用について、中長期的視点に立った宇宙ステーションの人文社会的利用の可能性を広く再検討し、今後の人文社会的利用が目指すべき方向と課題を明らかにすることを目的とした。

1998年度においては人文社会学領域における各専門分野の学者、研究者に対して総合的な聞き取り調査を実施した。受託研究事業の規模は4,998,000円。

## [6] 京都大学数理解析研究所との共同研究事業

従来の数理科学分野における京都大学数理解析研究所との協力関係をさらに発展させるため、1997年度より共同研究運営規程に基づいて共同研究事業に関する協定書を締結し、事業展開を図っている。1998年度においては、国際ワークショップを1999年1月28日～30日に開催した。

## [7] 学術フォーラムならびにその他の研究集会

### 「1」学術フォーラム

- (1) 学術フォーラム「ド・ジェンヌ博士との懇談会」(4月9日開催)
- (2) 学術フォーラム「数学者のためのゲージ理論入門」(4月10日～15日開催)

### 「2」その他の研究集会等

- (1) 予測の数学研究会(4月11日開催)
- (2) 比較幸福学研究会(4月25日開催)
- (3) わざ学研究会(7月18日開催)
- (4) わざ学座談会(9月12日開催)
- (5) 安全科学都市班研究会(9月18日開催)
- (6) 安全科学都市班研究会(10月22日開催)
- (7) 大崎仁招待講演会(10月31日開催)

テーマは「学術政策の動向について」、参加者は本研究所関係者、ならびに学術関係者等招待者約50名。

## [8] 「招へい学者」制度

本研究所の優れた研究環境を醸成するため、本研究所の研究施設を活かし、研究活動の活性化を図るため、国内外の卓越した研究者を「招へい学者(IAS Fellow)」として招へいする制度を活用し、1998年度には7名の研究者の招へいを実施した。

招へい学者は、原則として2ヶ月間本研究所に滞在し、自らの研究を推進すると共に、国内外の研究者との研究交流を通じて、本研究所の研究活動の推進を図った。

また、IAS Fellowとの懇談会(フォーラム)を10月17日に開催し、研究所の運営等について意見交換を行った。

なお、滞在期間中またはその後のしかるべき時期に、当該招へい学者を講師として、一般を対象とする公開講演会を開催し、また次年度開催に向けた準備を行った。

## [9] 「特別研究員」制度

若手研究者の育成を目的とし、優秀な若手研究者の研究を奨励するための研究奨励金を支給する特別研究員制度を創設し、1997年度より事業を具体化させた。1998年度には新たに2名の大学院博士課程修了者を採用し、4名の特別研究員の育成を図った。

## [10] 研究成果公表シンポジウム

1998年度およびそれ以前において研究事業が終了した下記の課題研究プロジェクト、ならびに特別研究プロジェクトについて、98年度中にその研究成果を取りまとめるとともに、研究成果を公表する学術公開講演会や国際シンポジウムの開催した。

## 「1」 課題研究「人類の自己家畜化現象と現代文明」

これまでに実施してきた研究の成果を一般を対象に公表するため、学術公開講演会を企画し、京都講演会ならびに東京シンポジウムを開催した。

### (1) 学術公開講演会「現代人類はどこまで『家畜』か一人の現状と未来を考える」

開催日程：12月12日

開催場所：京都府立総合福社会館

参加者：約200名

### (2) 学術シンポジウム「ヒト・コドモ・ペットー世紀末から未来を探る」

開催日程：1月9日

開催場所：東京神田学士会館

参加者：約100名

## 「2」 課題研究「安全科学」

1995年度から97年度までに実施した研究事業における成果の学術出版ならびに資料集の編集、基礎資料の電子化（データベース化）のための諸準備を行った。さらに、研究成果の公表を目的とする「『安全科学』（東西）公開シンポジウム」を開催した。

### (1) シンポジウム「国際政治における安全についてーグローバル・セキュリティと国際政治の新展開ー」

(12月19日)

会場：慶応義塾大学三田学舎

参加者：100名

### (2) シンポジウム「都市の死-その形態と今後」 (1999年1月30日)

会場：東京神田学士会館

参加者：100名

### (3) シンポジウム「医療における安全を巡って」 (1999年2月27日)

会場：大阪MIDシアター

参加者：400名

## 「3」 特別研究「沼記念プロジェクト」

一京都大学大学院医学研究科「沼メモリアルレクチャーシリーズ」・国際高等研究所「沼記念プロジェクト」合同シンポジウム

故・沼正作京都大学医学部教授（元企画委員、後に学術参与）の研究業績を讃えた特別研究であり、（株）島津製作所から研究資金の支援、ならびに研究施設として同社中央研究所内研究室の提供を受けた冠研究として、1992年10月に開始し97年9月末をもって終了した5年の研究期間で推進した研究事業である。本研究は、分子神経生物学にさらに新たな発生遺伝学的手法を導入し、神経機能を総合的に理解することを目指す先駆的基礎研究である。専任の若手研究員3名、研究補助員3名の研究体制で研究を実施した。

1998年度は、研究成果の取りまとめ結果を踏まえ、成果公表のために標記の国際シンポジウムを5月25日に国立京都国際会館において京都大学と共同開催した。参加者は約200名。

## [11] 一般公開事業・セミナー事業

### 「1」 IIAS Fellow 公開講演会

1998年度においては、97年度招へい学者の2名、ならびに98年度の4名を講師とし、一般市民を対象とする公開講演会を下記のとおり開催した。会場は本研究所「レクチャー・ホール」または「けいはんなプラザ（大会議室）」。

- (1) 埴原和郎公開講演会 (5月9日)  
講演テーマ: 「日本人のルーツ」  
参加者: 約150名
- (2) 井村裕夫公開講演会 (6月13日)  
講演テーマ: 「高齢者社会と健康」  
参加者: 約150名
- (3) 梅原 猛公開講演会: (6月27日)  
講演テーマ: 「生物の歴史からみた人間の運命」  
参加者: 約500名
- (4) 森嶋通夫公開講演会: (10月24日)  
講演テーマ: 「日本の成功と挫折」  
参加者: 約300名
- (5) 巽 友正公開講演会: (11月7日)  
講演テーマ: 「自然の災害と恩恵」  
参加者: 約120名
- (5) 坂井利之公開講演会: (11月28日)  
講演テーマ: 「情報とは何かーみんなの知識から私の知恵へー」  
参加者: 約150名

## 〔2〕「親子」サイエンス・スクール

「少年・少女」サイエンススクールは、21世紀を担う子供達を対象に、著名な研究者との触れ合いを通して創造性と科学への夢を導き出すことを目的として、1994年度から始めたセミナー事業である。

1997年度以降は、諸般の事情により1泊2日のプログラムを変更し、日帰りの「親子」サイエンススクールとして実施し、98年度においては「君の不思議を探そうーチョウ（蝶）とガ（蛾）の不思議への旅ー」をメインテーマとして、日高敏隆滋賀県立大学学長をコーディネーターに10月8日の開催を目指し企画・準備を行ったが、台風接近というやむを得ない状況になり、開催前日に中止を決定した。参加予定者は、近畿圏を中心とする小学校5年生～6年生の児童とその保護者50組100名。

## 〔12〕情報出版事業

### 〔1〕情報出版事業

情報出版委員会の検討結果を踏まえ、下記の出版ならびに広報事業を行った。

なお、インターネット出版の実用化に向けた検討を行い、出版物の電子情報化に向けた取り組みを行った。

#### (1) IAS Reports

各種研究事業において個別に取りまとめられた論文もしくは論文集を、1995年度より「IAS Reports」として不定期にて発行している。

1998年度の発行状況は、下記のとおりである。

- 1) 1998-001 Promotion of science and technology through exchanges in Japan-challenge and response (1998.05、Pfeiffer, H.、40p: IAS Fellow)
- 2) 1998-002 The Third Workshop on Orders and Structures in Complex System (1998.08、Gohara, K.、212p: 複雑系の秩序と構造)
- 3) 1998-003 総括ワークショップ「安全科学」 (1998.06、村上陽一郎、他、67p: 安全科学)
- 4) 1998-004 学術公開講演会「いま、幸福とは」 (1998.06、中川久定、他、59p: 比較幸福学)
- 5) 1998-005 比較幸福学研究会会議録: 資料編 (1999.03、413p: 比較幸福学)

- 6) 1998-006 宇宙開発事業団委託業務成果報告書 (平成9年度)  
(1998.09、241p:宇宙開発事業団受託研究)
- 7) 1998-007 The Fourth Workshop on Orders and Structures in Complex System  
(1998.11、Yoshida,Z.、163p:複雑系の秩序と構造)
- 8) 1998-008 安全科学「医療の安全」(1999.03、村上陽一郎:安全科学)
- 9) 1998-009 安全科学「安全から見た次代都市への移行プログラム」  
(1999.03、岩崎 敬:安全科学)
- 10) 1998-010 安全科学「安全学とプログラム型国際政治学」  
(1999.03、薬師寺泰蔵:安全科学)
- 11) 1998-011 沼記念プロジェクト研究成果報告書(1999.03、中西重忠、:沼記念プロジェクト)
- 12) 1998-012 情報論的転回(1999.03、吉田民人、情報論的転回)
- 13) 1998-013 比較幸福学(1999.03、中川久定、比較幸福学)
- 14) 1998-014 学術フォーラム「数学者のための場の理論入門」  
(1999.03、Ludwig FADDEEV,Tetsuji MIWA(ed.)、19p:京大との共同研究)

## (2) 学術出版

学術出版については、過年度実施した研究事業、あるいは開催した研究集会における研究成果を次の通り取りまとめ、出版した。

- 1) Advanced Mathematical Approach to Biology 1998.01 飛田武幸(編) 306 知覚・ゆらぎ・情報(94.8) World Scientific
- 2) The Origins and Past of Modern Humans - Towards Reconciliation 1998.04 尾本恵市、Tobias, P.(編) 267 遺伝と進化(96.3) World Scientific

## [2] 広報事業

情報・出版委員会の検討結果を踏まえ、次の広報事業を行った。

### (1) 広報誌「こうとうけん」

1998年度の広報誌「こうとうけん」は、第15号(夏号)ならびに第16号(冬号)を発行し、関係機関ならびに関係者に配布した。

### (2) 「IIAS NEWS LETTER」

年2回発行する広報誌「こうとうけん」の間をつなぐニュース紙として、「IIAS NEWS LETTER」を発行した。1998年度は第5号~第9号を発行し、関係機関ならびに関係者に配布した。

### (3) インターネット・ホームページにおける公表

本研究所の概要ならびに活動内容等を広く広報するために、インターネット上にホームページ開設している。本研究所の概要ならびに公開事業の広報、研究事業の概要紹介等を順次掲載し、内容の充実を図った。ホームページのアドレスは、「<http://www.iias.or.jp/>」。

## [13] 委員会活動

### [1] 企画委員会

#### (1) 企画委員の改選

1997年度に引き続き、正副所長4名を含む16名による体制で、研究事業の企画・立案、助言ならびに評価など研究事業の推進を図った。

#### 企画委員の構成

沢田 敏 男	国際高等研究所所長	農業土木学
井口 洋 夫	国際高等研究所副所長	物理化学
北川 善太郎	国際高等研究所副所長	民法学
松原 謙 一	国際高等研究所副所長	分子生物学

安藤由典	東京情報大学経営情報学部教授	音楽学
乾敏郎	京都大学大学院情報学研究科教授	心理学・認知科学
岩槻邦男	立教大学理学部教授	植物分類学
大野豊	京都大学名誉教授	情報工学
岡田益吉	筑波大学名誉教授	発生生物学
四方義啓	名古屋大学多元数理科学研究科教授	応用数学
長岡洋介	関西大学工学部教授	基礎物理学
中川博次	立命館大学理工学部教授	水域環境工学
中根千枝	日本学士院会員・東京大学名誉教授	社会人類学
野家啓一	東北大学文学部教授	科学哲学・科学史
三輪哲二	京都大学数理解析研究所教授	数理解析学
渡部忠世	京都大学名誉教授	農学・作物学

## (2) 委員会活動

企画委員会を定例的開催した。十分な議案審議ならびに意見交換するため、委員会は1泊2日の日程とし、4回開催した。

- 1) 第1回企画委員会 (5月22日～5月23日開催)
- 2) 第2回企画委員会 (8月28日～8月29日開催)
- 3) 第3回企画委員会 (11月20日～11月21日開催)
- 4) 第4回企画委員会 (1999年2月19日～2月20日開催)

## 「2」情報出版委員会

情報出版事業に関する具体的な推進方策について検討した。特に今後の高度情報化に備え、インターネット出版等学術情報の電子化について検討した。

### (1) 情報出版委員会の構成

委員長	北川善太郎	副所長
委員	江尻宏泰	学術参与 (大阪大学核物理研究センター長)
	大野豊	企画委員
	杉田繁治	学術参与 (国立民族学博物館副館長)
	横山俊夫	学術参与 (京都大学人文科学研究所教授)

(2) 情報出版委員会の開催は1回。

## [14] 一般施設公開ならびに視察・見学者の受け入れ

本研究所への理解をさらに深めて貰う機会にするため、一般施設公開、ならびに視察・見学者の受け入れを行っている。

### 「1」一般施設公開

春季と秋季に日程を決め、地元住民を対象に本研究所の施設ならびに庭園を一般公開している。1998年度においては、公開講演会の開催に合わせて4月9日、ならびに11月28日にそれぞれ一般施設公開を実施した。

### 「2」視察・見学者の受け入れ

事前の申し込みに基づき、国内外から可能な限り視察、ならびに見学者の受け入れを行った。1998年度においては、視察・見学者は延べ22団体、総数は約290名。

以上

